

第4回創立記念講演会を開催

「高校野球に携わって」

高野連事務局調査役・山口雅生さん(東高22回)

平成20年9月29日、午後1時半から第4回創立記念講演会を開催しました。今回は、高野連事務局調査役の山口雅生さん(東高22回)に「高校野球に携わって」と題した講演をおこなっていただきました。(校内幹事 井上恒)

「今日こうして話ができ、皆さんといっしょに時間を共有できることを光栄に思います。私のエラーをファインプレーで救ってください」の一言で講演会はプレーボール。

高校時代を懐かしんだ。東高は野球の強豪校ではなかったが、負けた時の悔しさは人一倍だった。「悔しさ」と意地ゆえに受験勉強ができた。自分が選んだ道だから頑張れた。

生徒諸君、マイナスをプラスに転じてほしい」と訴える。

関西大学野球部に入部した。膝を壊してマネージャーに転向したが、「有り難いことに一足早く社会勉強ができた」という。新聞記者を目指して2年間の就職浪人。「堂々と戦って負けたのだから仕方ない」と松下電器産業入社。マネージャー、コーチとし

て社会人野球の名門クラブを裏から支える。

異動で営業マンに。客からのクレームが続いた。そのピンチを野球の裏方で学んだことが救ってくれた。「押してもダメなら引いてみな、それがダメなら飛んでみな、宇宙まで……と考えた。気が大きくなった。悩んだら上から自分を見ると気分が変わる」と生徒を励ます。ピンチがチャンスになり、素早く対応することで客と良い人間関係を築けるようになる。

転機は47歳に訪れた。請われて日本高校野球連盟へ。野球部の不祥事対応が主な仕事である。各高校には「オープンが大事です。不祥事を明後日に報告に行くのはアカン。

今すぐ行ってください。『今日行くのが教育』時間が経つとダメ。生ものと同じ」と口酸っぱく説く。さらに、野球のことでたたみかける。兵庫国体では、「ハンカチ王子」と、齊藤佑樹君のチーム警備にも当たった。デイズニールランドでは100-110の精神を胸に秘めて事に当たるという。事故が起こると高校野球90年の伝統がダメになる。安全管理には全神経を傾ける。

話題はイチローとの出会いに。イチローに「イチローさんどうして喜ばないのですか?」と聞くと、「相手のことを思うと喜ばないですよ」と答えたという。相手への思いやりをイチローから学んだ。

講演会はいよいよ最終章へ。学校創立百周年を前にして、「東高は卒業生たる我々に何をしてくれるか、ではなく、卒業生が東高に何をできるか」を考える時だという。宮大工の世界を持ち出し、「神社建造には60、80年の永い年月が必要である。見

る、働く、学ぶことを実際にやる、それを次世代に伝える。先輩には後輩へと連綿と続く伝統を引き継ぐ責任がある」と熱く語る。

最後に、後輩に向けて「夢を追え、夢を追う限りあなたたちを応援する。私も夢を追います。東高のみんな、アルプスの応援席で5000人の同窓会をしましょう。素晴らしい創立百周年にしてほしい。悔いのない時間を過ごして下さい。人生はあっという間、1日1日悔いなく丁寧に過ごして下さい」と熱く語って講演会はあっという間にゲームセットとなった。



■山口雅生さん

昭和26年生まれ(東高22回)野球部に所属。昭和45年、関西大学に入学、野球部所属(膝の故障でマネージャーに転向)。昭和50年、松下電器産業入社、野球部マネージャー・コーチ。昭和59年、松下電器中部カーエレクトロニクスに異動。平成14年、松下電器産業を退社し、(財)日本高等学校野球連盟事務局専任に就任。平成17年、同事務局長就任。平成20年、同事務局調査役就任。

